

黒大豆・紫ずきんにおける畜産有機物の基肥1回施用技術

農林センター 環境部

要旨

黒大豆・紫ずきん栽培において、地域内で産出される牛糞堆肥と発酵鶏糞を基肥1回施用することで、追肥が不要となり肥料費も安くなる。

成果の概要

基肥1回施用区では、慣行施肥区と同様に地域内で産出される牛糞堆肥を1t/10a施用したうえで、発酵鶏糞を窒素として4.7kg/10a基肥施用し、追肥は行わない(表1)。

収量は、慣行施肥区と同等である(図1)。

肥料費は、慣行施肥区より23%安くなる(表1)。

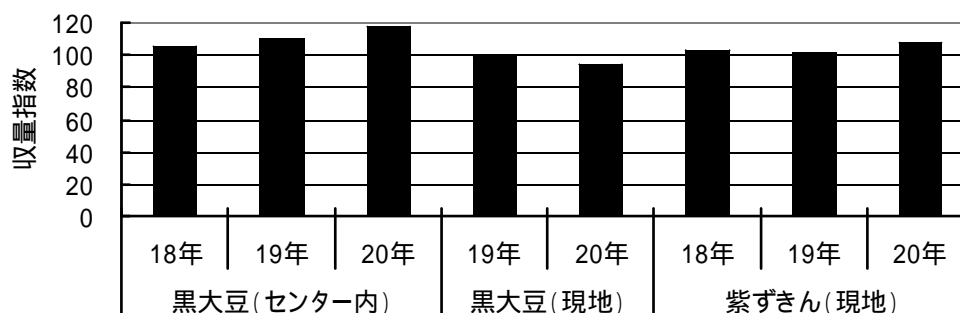
表1 センター内試験(亀岡市)での施肥の詳細と肥料費

	牛糞堆肥 t/10a	基肥		追肥		肥料費 円/10a
		肥料	窒素施用量 kgN/10a	肥料	窒素施用量 kgN/10a	
基肥1回施用区	1	発酵鶏糞	4.7	-	-	¥9,842
慣行施肥区	1	豆有機	1.2	硫安	2.1	¥12,845

注)牛糞堆肥は牛糞パーク堆肥で、窒素0.88%、りん酸0.61%、加里0.48%

発酵鶏糞は、窒素2.9%、りん酸5.6%、加里3.3%で、窒素利用率を70%としているため、慣行施肥区よりも窒素施用量が多くなっている。

肥料費には牛糞堆肥を含む。



注)黒大豆では完全子実重、紫ずきんでは莢厚11mm以上の可販収量。

現地は、黒大豆は南丹地域、紫ずきんは18,19年は南丹地域で20年は中丹地域。3箇所の平均値(19年の黒大豆のみ2箇所)。

図1 基肥1回施用区の収量(慣行施肥区を100とした場合の指数)